

ふりがな

さかうえ やすひろ

氏名

坂上 康博

1. 学歴

- 1977年4月 高知大学教育学部特設体育科入学
1981年3月 高知大学教育学部特設体育科卒業
1981年4月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程保健体育専攻入学
1983年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程保健体育専攻終了
1984年4月 一橋大学大学院社会学研究科博士課程社会政策・問題専攻入学
1987年3月 一橋大学大学院社会学研究科博士課程社会政策・問題専攻単位取得満期退学

2. 職歴・研究歴

- 1987年1月 大学設置審議会において福島大学行政社会学部応用社会学科の講師適格と判定
(スポーツ文化論担当)
1987年4月1日～1989年3月31日 一橋大学社会学部助手(特別研究員)
1989年4月1日～1991年3月31日 福島大学行政社会学部応用社会学科助手
1991年4月1日～1992年3月31日 福島大学行政社会学部応用社会学科講師
1992年4月1日～2002年3月31日 福島大学行政社会学部応用社会学科助教授
1994年3月1日～1996年2月29日 英国ウォーリック大学社会史研究所客員研究員
2002年4月1日～2004年3月31日 福島大学行政社会学部応用社会学科教授
2004年4月1日～2004年9月30日 国立大学法人福島大学行政社会学部応用社会学科教授
2004年10月1日～2009年3月31日 国立大学法人福島大学人文社会学群行政政策学類教授
2009年4月1日～ 現在 国立大学法人一橋大学大学院社会学研究科教授

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

スポーツ方法、スポーツ演習、スポーツと文化B、スポーツの歴史、スポーツ社会学の基礎

(b) 大学院

国際スポーツ論

(B) ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

研究上の主要な関心は、近現代におけるスポーツの位置と意味を、文化、社会、政治という広い文脈からとらえることにある。つまりスポーツの社会史的あるいは歴史社会学的把握である。その際、スポーツを文化や社会、政治などの変化やその内実を読み取るための材料としてとらえるだけでなく、スポーツ自体の魅力とその独自の発展のあり方にも留意したいと考えている。この両者の絡み合いを、諸外国におけるあり方をも視野に入れなが

ら、日本近現代を中心に考察することが当面の中心的なテーマである。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・長谷川智・坂上康博・木寺英史・鈴木智也『剣道の未来—人口増加と新たな飛躍のための提案』（共著），左文右武堂，2021。（分担部分：1章「〈座談会〉剣道はこのままで大丈夫？」（共著），11-51，「時代を超え、国境を越える文化の力—剣道三百年史」97-156，6章「〈座談会〉剣道のここを変えてみては？」（共著）265-307）
- ・Fan Hong and Lu Zhouxiang eds., *The Routledge Handbook of Sport in Asia*, Routledge, 2020.（分担部分：“Kendo: An Indigenous Culture Embodying National Narratives in Japan”, 64-74, “The Rise of Modern Sport and the Olympic Movement in Japan”（共著），135-148）
- ・『12の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究』（編著），かもがわ出版，2019
- ・坂上康博・中房敏朗・石井昌幸・高嶋航編『スポーツの世界史』（共編著），一色出版，2018。（分担部分：「はじめに」17-22，「第21章日本—スポーツと武術／武道のあゆみ150年」533-566）
- ・小路田泰直・井上洋一・石坂友司編『ニッポンのオリンピック』青弓社，2018。（分担部分：「柔道思想とオリンピックズの交錯—嘉納治五郎の「自他共栄」思想」131-162）
- ・『昭和天皇とスポーツ—玉体の近代史（歴史文化ライブラリー425）』吉川弘文館，2016
- ・土佐昌樹編『東アジアのスポーツ・ナショナリズム—国家戦略と国際協調のはざままで』ミネルヴァ書房，2015。（分担部分：「日本の武道—ナショナリズムの軌跡」75-110）
- ・吉田裕・森武磨・伊香俊哉・高岡裕之編『アジア・太平洋戦争辞典』吉川弘文館，2015。（分担部分：「大谷武一」「小笠原道生」「オリンピック東京大会」「学校教練」「北沢清」「栗本義彦」「郷隆」「沢村英治」「銃剣道」「鈴木良徳」「大日本学徒振興会」「大日本射撃協会」「大日本体育会」「大日本武徳会」「体力章検定」「藤生安太郎」「武道章検定」「民族の祭典」「明治神宮国民体育大会」「野球統制」）
- ・川口智久・三輪定宣編『先生、殴らないで！—学校・スポーツの体罰・暴力を考える』かもがわ出版，2013。（分担部分：「部活での暴力はいつから始まったか」40-64）
- ・田崎宣義編『近代日本の都市と農村—激動の1910—50年代』青弓社，2012。（分担部分：「戦時下の映画と国家—1940年上映の『民族の祭典』をめぐる—」227—258）
- ・井上俊・菊幸一編『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房，2012。（分担部分：「近代オリンピックの誕生」10—11）
- ・宮地正人他編『明治時代史大辞典』第2巻，吉川弘文館，2012。（分担部分：「西郷四郎」「自転車競走」「柔道」「スケート」「園田秀雄」「大日本武徳会」「高野佐三郎」「中馬庚」「テニス」「登山」「富田常次郎」）
- ・宮地正人他編『明治時代史大辞典』第1巻，吉川弘文館，2011。（分担部分：「運動会」「学校武道」「金栗四三」「弓術」「剣道」「講道館」）
- ・『海を渡った柔術と柔道』（編著），青弓社，2010
- ・坂上康博・高岡裕之編『幻の東京オリンピックとその時代—戦時下のスポーツ・都市・身体』（共編著），青弓社，2009。（分担部分：「はじめに」（共著）11-19，「武道界の戦時体制化—武道綜合団体「大日本武徳会」の成立」243-278，「標的としての都市—厚生省による運動施設拡充政策の展開」279-319，「あとがき」445-448）
- ・日本体育学会編『最新スポーツ科学事典』，平凡社，2006。（分担部分：「自国史」342-344）
- ・歴史学会編『郷土史大辞典』朝倉書店，2005。（分担部分：「駅伝競争」その他スポーツ関連30項目）
- ・宮地正人監修『明治時代館』小学館，2005。（分担部分：「舶来品としてのスポーツ」「肉体の改造」「相撲人気

と国技館の完成」434-437, 492-439)

- ・『スポーツと政治 (日本史リブレット 58)』山川出版社、2001
- ・『につぼん野球の系譜学 (青弓社ライブラリー15)』青弓社、2001
- ・日立デジタル平凡社編『百科で見る 20 世紀』CD-ROM, 日立デジタル平凡社、2000. (分担部分:「スポーツ」)
- ・『権力装置としてのスポーツ—帝国日本の国家戦略 (講談社選書メチエ 136)』講談社、1998
- ・中村敏雄編『日本文化の独自性 (スポーツ文化論シリーズ 9)』創文企画、1998. (分担部分:「剣道の近代化とその底流—三本勝負を中心に—」155-194)
- ・David Levinson and Karen Christensen (ed.), *Encyclopedia of World Sport*, Vol. II, ABC-CLIO, 1996. (分担部分: “Kendo”, 547-550)
- ・福島県折込広告社編『折込広告—歴史と役割—』福島県折込広告社、1995. (分担部分:「新聞折込広告史研究序説—通史的叙述の試み—」1-24)
- ・大塚忠義・宇都宮伸二・坂上康博編『のびのび剣道学校—撃の美を求めて』(共編著), 窓社, 1990. (分担部分:「温故知新—竹刀・防具・ルールの変遷から見た剣道」(共著)、11-48, 「技術・戦術—剣道の魅力の本体を探る」49-68, 「創意工夫—わかる剣道楽しい指導」69-95)
- ・学校体育研究同志会編『国民運動文化の創造』大修館書店、1989. (分担部分:「敗戦と軍国主義体育の一掃」「憲法=教育基本法体制の成立と学校体育の刷新」14-25)
- ・伊藤高弘・出原泰明・上野卓郎編『スポーツの自由と現代』下巻、青木書店、1986. (分担部分:「日本近代におけるスポーツの受容と展開—明治期の校友会野球部を中心に—」401-434)
- ・日本体育学会体育原理専門分科会編『スポーツの概念』不昧堂出版、1986. (分担部分:「明治期における学生と野球」102-106)

(b) 論文

- ・「3つの東京オリンピックと歴史研究の課題—忘却と捏造、神話化に抗して—」『歴史学研究』第1008号, p.2-11, 歴史学研究会, 2021.4
- * 「スポーツの武士道/武道的変容説の再検討—拙書『につぼん野球の系譜学』を中心に—」『体育史研究』第38号, p.41-56, 体育史学会, 2021.3
- ・「1920~40年代のスポーツ史像と民衆」『民衆史研究』第98号, p.5-19, 民衆史研究会, 2020
- ・“The Nationalization of the Body in Martial Arts: A Case of Postwar Japan”, *Journal of Martial Arts Research*, 2(2), p.1-9, 2019
- ・「1964年のナショナリズムと東京オリンピック—文学者たちの言説をめぐって」『一橋大学スポーツ研究』第38巻, p.19-34, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2019
- ・「スポーツのとらえ方—その多様性と国際的な共通理解—」『運動文化研究』第36号、学校体育研究同志会、2019
- * “The Historical Creation of Kendo’s Self-Image from 1895 to 1942 : A Critical Analysis of an Invented Tradition”, *Martial Arts Studies*, 6, p.10-26, 2018
- ・「日露戦中・戦後の大日本武徳会—戦時下の活動、武術事業の変化と「剣道」「柔道」への名称変更、イデオロギー的機能の限界—」『一橋大学スポーツ研究』第37巻, p.21-35, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2018
- ・「GHQ占領下における剣道—規制、存続、スポーツ化、芸能化の諸相—」、『一橋大学スポーツ研究』第35巻, p.3-17, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2016
- ・「皇太子/昭和天皇裕仁の野球観戦—1922~30年—」『一橋大学スポーツ研究』第34巻, p.3-17, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2015
- ・「『楽しい武道』と『わが国固有の伝統と文化』を考える」、『たのしい体育・スポーツ』第33巻第7号, p.29-31, 学校体育研究同志会, 2014

- ・「スポーツ文化の価値と可能性—1960～70年代の国際的な宣言・憲章を中心に—」、『一橋大学スポーツ研究』第33巻, p.72-79, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2014
- ・「植民地下朝鮮におけるサッカー—民族の表象をめぐる闘争と熱狂—」(共著)『日本植民地研究』第25号, p.3-21, 日本植民地研究会, 2013
- ・「帝国議会衆議院における「体育ニ関スル建議案」の審議過程—1905年の剣道、柔道の正科採用をめぐる対抗—」、『一橋大学スポーツ研究』第32巻, p.40-64, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2013
- ・「武徳会ページの審査実態(その2)—支部部会長の分析を中心に—」『一橋大学スポーツ研究』第31巻, p.19-28, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2012
- ・「武徳会ページの審査実態—審査結果の全体像と本部役員のページを中心に—」『一橋大学スポーツ研究』第30巻, p.3-14, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2011
- ・“The End of Amateur Hegemony in Japanese Sport, 1971-2003”, *Hitotsubashi Journal of Social Studies*, Vol.43 No.2, p.61-67, 2011
- ・「太平洋戦争下のスポーツ奨励—1943年の厚生省の政策方針、運動用具および競技大会の統制—」『一橋大学スポーツ研究』第29巻, 一橋大学スポーツ科学研究室, p.11-18, 2010
- ・「大谷武一(体育人と身体観6)」『体育の科学』第56巻第2号, p.119-124, 日本体育学会, 2006
- ・「福島大学学生の『身体リテラシー』に関する実態調査」(共著), 『福島大学研究年報』創刊号, p.1-16, 福島大学, 2005.12
- ・“Sports and Politics : The Case of Japanese Sport in the Inter-war Years”, *Proceedings of the 20th International Congress of Historical Sciences*, CD-ROM, July 2005
- ・“The Berlin Olympics and Nationalism in Japan”, *International Conference NSBC2000 Proceedings* (Soon-Hee Whang ed.), p.105-109, 2001
- ・「剣道用具の世界とその歴史—ひとつの研究序説として—」『スポーツ用具史研究の現状と課題』水野スポーツ振興会 1999年度研究助成金研究成果報告書, p.61-67, 2000
- ・「スポーツと天皇制の脈絡—皇太子裕仁の摂政時代を中心に—」『歴史評論』第602号, p.29-44, 歴史科学協議会, 2000.6
- ・「『肉体の共和国』—近代オリンピックの思想」『シアター・オリンピック手帖(劇場文化別冊)』, p.302-311, 静岡県舞台芸術センター, 1999.3
- ・「サッカー・ワールドカップ—インスタント右翼の誕生」『木野評論』第30号, p.145-151, 京都精華大学, 1999.3
- ・「英国近代スポーツ史像の再構成」『現代スポーツ研究』第1号, p.33-43, 現代スポーツ研究会, 1995
- ・「現代武道の文化的課題」『体育科教育』第41巻第12号, p.18-21, 大修館書店, 1993.12
- ・「『武道』復活をめぐる基本問題」『たのしい体育・スポーツ』第38号, p.34-40, 学校体育研究同志会, 1992.3
- ・「国民統合装置としてのスポーツ—1928～32年を中心に—」『歴史学研究』第622号, p.1-15, 歴史学研究会, 1991.8
- * 「大正期における大日本武徳会—その政治的軍事的機能の検討を中心に—」『体育史研究』第7号, p.37-51, 日本体育学会体育史専門分科会, 1990.3
- ・「大日本武徳会の成立過程と構造—1895～1904年—」『行政社会論集』第1巻第3・4合併号, p.59-112, 福島大学行政社会学会, 1989.3
- ・「1910・20年代における大日本武徳会」一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位修得論文, 1987.1
- ・「大日本武徳会の成立と展開過程—明治期剣道を中心に—」東京学芸大学大学院教育学研究科修士論文, 1983.1

(c) 翻訳

- ・「GHQの対日占領公式記録『日本政治の再構成』および『日本占領の非軍事的活動の歴史』にみる大日本武徳

会』『武道学研究』第26巻第2号, p.42-p.49, 日本武道学会, 1993.12

(d) その他

- ・(書評) 白川哲夫・谷川譲編『甲子園』の眺め方: 歴史としての高校野球』、『スポーツ社会学研究』第28巻第2号, 83-85, 2020.9
- ・「剣道の禁止と再出発」『剣道日本』2019年8月号, p.66-73, 剣道日本社, 2019.8.
- ・「〈座談会〉「競技」として作る剣道の未来」(共著)『剣道日本』2019年7月号, p.44-53, 剣道日本社, 2019.7
- ・「〈著者は語る〉『スポーツの世界史』」『現代スポーツ研究』第3号, p.57-61, スポーツ科学研究所, 2019.3
- ・「〈対談〉「当たり前」化する政治 祝賀資本主義と東京オリンピック」(共著)『世界』第916号, p.113-123, 岩波書店, 2019.1
- ・(書評) 石坂友司『オリンピックの発展と危機』、『図書新聞』第3366号, 2018.9
- ・「刊行に寄せて」シュテファン・ヒューブナー/高嶋航・富田幸佑訳『スポーツがつくったアジア—筋肉的キリスト教の世界的拡張と創造される近代アジア』一色出版, p. x-xi, 2017
- ・「書評に答えて」『スポーツ社会学研究』第25巻第2号, p.89-92 日本スポーツ社会学会, 2017.9
- ・(図書紹介) 寒川恒夫編『日本近代を創った身体』、『英語教育』第66巻第3号, p.92, 2017.6
- ・「昭和天皇はゴルフ好き?」『本郷』2016年5月号, p.17-19, 吉川弘文館, 2016.5
- ・(書評) 井上邦子他『スポーツ学の射程』、『図書新聞』3240号, 2016
- ・「現代社会にとってスポーツとは—メガスポーツイベントのテレビ中継考」『GALAC』2015年10月号, p.12-15, NPO 放送批評懇談会, 2015.10
- ・「特別企画スポーツと政治: スポーツのもつ力を自覚し、その良し悪しを見定める」『コーチング・クリニック』2014年4月号, p.26-30, ベースボール・マガジン社, 2014.4
- ・(書評) 溝口紀子『性と柔』、『しんぶん赤旗』2014年1月26日
- ・「進化するオリンピック」(監修)『月刊ジュニアエラ』2012年8月号, 朝日新聞社, 2012.8
- ・「日本的スポーツマンシップとしての武道の教え」『月刊武道』第545号, p.28-32, 日本武道館, 2012.4
- ・「一橋大学坂上教授に聞く」, 中国新聞サービスセンター編『半世紀の歩み(中国新聞サービスセンター社史)—さらなる変革を求めて—』, p.36, 中国新聞サービスセンター, 2012
- ・「書評に答えて」『スポーツ社会学研究』第20巻第1号, p.101-104, 日本スポーツ社会学会, 2012.3
- ・「剣道用具の世界とその歴史」『士魂』第24号, p.14-31, 一橋剣道部, 2011.12
- ・「〈座談会〉スポーツ思想とアカデミズム、ジャーナリズム」(共著)『現代スポーツ評論』第23号, p.16-35, 創文企画, 2010.11
- ・全国のびのび剣道学校運営委員会編『創設30周年記念誌のびのび剣道学校講義 雲の巻』(編著), のびのび剣道学校運営委員会, 2011
- ・「書評に答えて」『スポーツ社会学研究』第18巻第1号, p.112-115, 日本スポーツ社会学会, 2010.3
- ・「日本サッカーを語ること=日本の未来を語ること!?!」『Hitotsubashi Quarterly』Vol.24, p.26-27, 2009
- ・「日本刀と剣道をめぐる『常識』の転換」『月刊武道』2008年1月号
- ・「スポーツ文化の可能性と地域振興—3つの国際的な文書から—」『NEWS LETTER』No.38, p.12-15, ふくしま自治研修センター, 2007.7
- ・(書評) 福田宏著『身体の国民化—多極化するチェコ社会と体操運動』, 『スポーツ社会学研究』第15号, 2007.3
- ・「ベースボールを野球と名付けたのは正岡子規というのはガセ」、フジテレビトリビア普及委員会『トリビアの泉第15巻』講談社, 2006
- ・(図書紹介) 西尾達雄著『日本植民地下朝鮮における学校体育政策』, 『日本歴史』第684号, p.112-114, 吉

川弘文館, 2005.5

- ・(書評) 黄順姫著『W杯サッカーの熱狂と遺産』、『社会学ジャーナル』第29号, 2004.3
- ・(図書紹介) 高木勇夫著『フランス身体史序説』、『スポーツ史学会会報ひすぽ』第54号, スポーツ史学会, 2003.3
- ・「横浜フリーゲルスのラストゲーム」『スポーツ史学会会報ひすぽ』第51号, p.1-2, スポーツ史学会, 2002.1
- ・「戦前のスポーツにみる日本と朝鮮・中国」『前衛』2001年10月号, p.145-153, 日本共産党, 2001.10
- ・(図書紹介)『前畑ガンバレ』『ナチ・オリンピック』『権力装置としてのスポーツ』, NHK取材班編『その時歴史が動いた5』KTC中央出版, p.250-251, 2001
- ・全国のびのび剣道学校運営委員会編『のびのび剣道学校講義 風の巻』(編著), 全国のびのび剣道学校運営委員会, 2000
- ・「スポーツの社会史」『日本の科学者』第38巻第3号, p.26-31, 日本科学者会議, 2003.3
- ・「日本のスポーツ観を超えて」『たのしい体育・スポーツ』第122号, p.6-7, 学校体育研究同志会, 2000.8
- ・(書評) 黒田勇夫著『ラジオ体操の誕生』、『デジタル月刊百科』2000年5月号, 日立デジタル平凡社, 2000.5
- ・(書評) 吉見俊哉他『運動会と日本近代』、『しんぶん赤旗』200年5月1日
- ・「イギリス個人主義?体験の記」『月刊IM』第341号, p.34-35, 1999.6
- ・「生きた基本を学べば剣道はもっと楽しくなる」『剣道日本』第279号, p.46-51, スキージャーナル社, 1999.5
- ・「ラジオ体操なんて「狂気のサタヤ」」『本』第266号, 講談社, 1998.9
- ・(書評) 大塚忠義著『日本剣道の思想』、『日本剣道の歴史』, 『運動文化研究』第15号, p.147-150, 学校体育研究同志会, 1997
- ・(新刊紹介) 稲垣正浩ほか著『図説スポーツの歴史』, 『史学雑誌』第106巻第7号, 1997.7
- ・「アトランタ五輪まであと〇〇日!」『日本スポーツ社会学会だより』第14号, p.26-27, 1996.7
- ・「英国スポーツ文化の渦の中で」『日本スポーツ社会学会だより』第9号, p.17-19, 1994.10
- ・「脱常識・頭で考えるレベルアップ作戦—一撃の美を求める『剣道学校』の指導法①~⑱」(共著), 『剣道日本』第212~230号, スキージャーナル社, 1993.9-1995.3
- ・地域生涯学習研究会編『郡山市生涯学習基本構想のための基礎調査』, 郡山市教育委員会, 1991. (分担部分: 「市民の過去1年間の学習・文化活動の実態」「今後の学習・文化活動への参加希望」 p.11~38)
- ・「どうなる子ども教育 新学習指導要領 [16] 保健・体育」『新婦人しんぶん』第1877号, 1990.5.10
- ・「大日本武徳会の政治的機能」『一橋大学体育共同研究室研究年報』, p.27-28, 一橋大学体育共同研究室, 1989.8
- ・「武道の名称復活と私たちの実践・研究」『第98回学校体育研究同志会全国研究大会提案集』, 学校体育研究同志会, 1989
- ・(書評) クルューガー・リオードン編『論集国際労働者スポーツ』, 『運動文化研究』第7号, p.136-139, 学校体育研究同志会, 1989.7
- ・「教材の「道徳」化と態度主義」『民教連ニュース』No.70, p.4, 日本民間教育研究団体連絡会, 1989.3
- ・(書評) 中村敏雄編『現代スポーツ論』, 『学校体育研究同志会ニュース』第153号, p.10, 1988.11
- ・「年表風オリンピックの本(戦後編)」『スポーツ批評』第6号, p.117-123, 窓社, 1988.7
- ・「遠いねらいを洞察しビジョンをもとう」『学校体育研究同志会ニュース』第148号, p.10, 1988.1
- ・「(聴き取り) セピア色のバスケットボール—パイオニアが語る日本籠球界—」『スポーツ批評』第4号, p.114-126, 窓社, 1987.12
- ・「『武士の野球』論の再検討」『体育科教育』第35巻第7号, p.52-53, 大修館書店, 1987.7
- ・「格技から武道へ—この問題にいかに対応すべきか—」『NOVA』第8号, p.2-4, 学校体育研究同志会運動文化論研究委員会, 1987.10
- ・「格技から武道へ—その背景にあるもの—」『教育』第479号, p.121-122, 国土社, 1987.4

- ・「戦時下の体育 その光景」『NOVA』第6号, 学校体育研究同志会運動文化論研究委員会, 1987
- ・(書評) 中村民雄『史料近代剣道史』, 『剣道時代』第13巻第3号, p.40-41, 1986.3
- ・「剣道の紹介を通じて感じたこと」『スポーツのひろば』第147号, p.26-27, 1985.11
- ・「アメリカスポーツ社会学読後ノート」『運動文化研究』第3巻, p.52-56, 学校体育研究同志会, 1985.7
- ・「1930年代前半における日本のスポーツ政策—「体育運動ノ合理的振興方策」を中心に—」『ΣΩMA3(体育・スポーツ若手研究者の会第3回ゼミナール報告集)』, p.7-10 体育・スポーツ若手研究者の会, 1985.7
- ・「武道問題の一側面—「武道振興大会」をめぐる—」『同志会ニュース』第130号, p.8, 学校体育研究同志会, 1985.1
- ・「格技をめぐる状況と「剣道の技術構造」の探究」『第88回学校体育研究同志会全国研究大会提案集』学校体育研究同志会, 1984.12
- ・「東アジアへの疑問符—「南北朝鮮体育会談」をめぐる—」『同志会ニュース』第126号, p.8, 学校体育研究同志会, 1984.5
- ・(書評) 大塚忠義他『のびのび剣道』, 『たのしい体育・スポーツ』第5巻, p.87-89, 学校体育研究同志会, 1983
- ・「野蛮さをもとから断つために」『第84回学校体育研究同志会全国研究大会提案集』, p.140-142, 学校体育研究同志会, 1983.8

B. 本研究科着任後の研究活動(着任2009年)

(a) 国内外学会発表

- * “The Bid for the 1940 Tokyo Olympics and Their Relinquishment: Challenging the Fabrication of Historical Fact and its Stagnation”, at the 2020 Yokohama Sport Conference held on line from 8 to 22 September, 2020
- * 「3つの東京オリンピックと歴史研究の課題—1940年・1964年・2021年—」歴史学研究会総合部会例会「スポーツの歴史学—現在と未来—」, 2020年7月19日
- * 「スポーツの武士道/武道的変容説の再検討—拙書『につぼん野球の系譜学』を中心に—」, 日本体育学会第70回大会体育史シンポジウム「日本の体育・スポーツにおける武(士)道的性格」, 慶応大学, 2019年9月10日
- * “The Nationalization of the Body in Martial Arts: A Case of Postwar Japan”, The Annual Conference of the Martial Arts Section of the German Society of Sport Science, Gent University, 15 November 2018
- * 「スポーツ: 朝鮮サッカーを中心に」, 日本殖民地研究会第20回全国研究大会共通論題企画「帝国日本の熱狂・ホスピタリティ・アイロニー」, 2012年7月
- * 「柔術と柔道の伝播をめぐる」, 日本武道学会第44回大会本部企画: フォーラム「武道の固有性を新たに問う—武道の国際的普及をめぐる—」2011年8月30日, 『武道学研究』第44巻第3号, 2012年, pp.137-144
- ・同時代史学会第27回研究会「スポーツと政治」コメンテーター, 2011年7月2日
- * 「スポーツ史とは何か」, スポーツ史学会第24回大会シンポジウム「社会史以後のスポーツ史研究」, 2010年11月27日, 『スポーツ史研究』第25号, p.92-94, 2012
- ・日本スポーツ社会学会第22回大会シンポジウム「政治とスポーツ」コメンテーター, 2013年3月19日

(b) 国内研究プロジェクト

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))「グローバル化社会の多様化する主体/コミュニティと「生活圏」としてのスポーツ研究」(研究分担者), 日本学術振興会, 2019.4-2022.3
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))「GHQ占領下における武道の存続状況」(研究代表者), 日

本学術振興会, 2017.4-2019.3

- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))「グローバル化する社会におけるスポーツと多様性に関する研究」(研究分担者), 日本学術振興会, 2016.4-2019.3
- ・文部科学省科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「米国西海岸におけるアジア武術の受容、普及および変容 1950年—1993年」(研究分担者), 日本学術振興会, 2016.4-2019.3
- ・サントリー文化財団人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成「グローバル文化としての東アジア武術—日・米・英における伝授、表象、変容」(研究分担者), 2015.8-2017.7
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))「グローバル化する社会におけるスポーツと格差・不平等に関する総合的研究」(研究分担者), 日本学術振興会, 2011.4-2014.3
- ・文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))「武道の戦後改革に関する体育史的考察」(研究代表者), 日本学術振興会, 2008.4-2010.3

(c) 国際研究プロジェクト(報告)

- ・“The dominant narrative and the forgotten and hidden side of Japanese Olympic history” at the international workshop “Alternative Olympic Narratives in Japan”, at the Faculty of Arts and Philosophy of Ghent University (Belgium), 19-20.12.2020.
- ・“The Creation of Kendo’s Self-Image from 1868 to 1945 : A Critical Analysis of Invented Tradition”, at the Symposium, “New Research on Japanese Martial Arts”, Bath in U.K., May 3rd 2017
- ・「戦後日本における武道の変容」, サントリー文化財団学際的グループ研究助成報告会, 東京、2016年3月7日
- ・“The End of Amateur Hegemony in Japanese Sport, 1971-2003”, at the First Anglo-Japanese Conference on Sport History, Hitotsubashi University, 13th May 2011

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・日本体育学会第67回大会 専門領域体育史シンポジウム「日本におけるメディア・オリンピックの誕生—歴史学から考えるオリンピック(2)—」, 2016年8月25日
- ・日本体育学会第66回大会専門領域体育史シンポジウム「歴史学から考えるオリンピック」, 2015年8月25日
- ・日本体育学会第64回大会体育史専門分科会シンポジウム「極東スポーツ界の軌跡—戦前の中国・朝鮮・日本・フィリピンを中心に—」, 2013年8月29日
- ・全国のびのび剣道学校(2009-2019)
- ・スポーツ文化研究会(2009-2019)

6. 学内行政

(A) 役員・部局長・評議員等

(B) 学内委員会

付属図書館委員会(2019年4月~2020年3月)

一橋ジャーナル編集委員会(2019年4月~2020年3月)

全学共通教育専門委員会(2015年4月~2016年3月)

学部教育専門委員会(2013年4月~2014年3月)

安全衛生委員会 (2010年4月～2016年3月)
一橋大学開放講座委員会 (2012年4月～2013年3月?)
全学共通教育開発プロジェクト (2011年4月～2012年3月)
共通教育図書選定WG (2011年4月～2012年3月)

(C) 課外活動顧問

剣道部部长 (2009年4月～2019年1月)
剣道同好会顧問 (2014年5月～2020年5月)

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

早稲田大学スポーツ科学部 (2019年～現在「日本スポーツ文化論」)
福島大学行政政策学類 (2010年度「スポーツ文化論」)

(b) 所属学会および学術活動

日本武道学会 1982年10月～現在
日本体育学会 1985年3月～現在
スポーツ史学会 1987年10月～現在 学会賞・奨励賞選考委員 (2006年4月～2008年3月)、理事 (2006年8月～2009年7月)、第22回大会組織委員長 (2009年12月)
歴史学研究会会員 1991年6月～現在
日本スポーツ社会学会会員 1993年2月～現在 第25回大会実行委員長 (2016年3月20-21日)
日本スポーツ人類学会 1999年3月～現在
体育史学会 2011年9月～現在 理事 (2011年9月～2013年8月)、第5回学会大会会場責任者 (2016年5月14-15日)、副会長兼『体育史研究』編集長 (2019年10月～現在)
British Society of Sport History 1994年6月～2018年5月
日本スポーツ法学会 1992年12月～2007年3月

(c) 公開講座・市民講座

- ・「3つの東京オリンピック」学校体育研究同志会埼玉支部連続講座、2021年3月27日
- ・「オリンピックでたどる世界史/日本史/一橋大学史」一橋祭公開講義、2020年11月22日
- ・「もうひとつの東京オリンピック～1940年の「幻の五輪」～」、日比谷カレッジ、日比谷図書文化館、2017年10月31日
- ・「高度経済成長期のスポーツの祭典—1964東京オリンピック—」小平市中央公民館主催タイムリー講座「東京オリンピック1964年とその時代④」、2017年1月31日
- ・「スポーツからみた戦後日本の70年」小平市中央公民館主催タイムリー講座「戦後70年を振り返る⑦」、2015年7月30日
- ・「スポーツとナショナリズム：オリンピックと政治—歴史と現在」第5回2013年前期まちだ市民国際学プログラム「今、あらためてナショナリズムを考える」、2013年6月13日
- ・「スポーツにみる“常識、をめぐって—昭和、女性、2006ワールドカップ—」一橋大学社会学部連続市民講座 2011年度第6回、2011年10月15日
- ・「スポーツマンガからみる戦後日本の文化史—「スポ根マンガ全盛時代」を中心に—」、一橋大学KODAIRA祭

公開講義, 2010年6月6日

(e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

- ・「スポーツの世界史を描くことの難しさ、面白さ—『スポーツの世界史』の編集をふり返って—」第63回東伏見スポーツサイエンス研究会, 早稲田大学, 2020年2月10日
- ・「私たちがめざす「楽しい武道」の授業」, 学校体育研究同志会愛知支部例会, 2020年1月25日
- ・「入門講座武道」, 第158回学校体育研究同志会全国研究大会, 2019年8月3日-5日
- ・「戦前の大学スポーツと一橋の戦没オリンピック」, 一橋いしぶみの会, 一橋大学 KODAIRA 祭, 2019年6月9日
- ・「入門講座武道」, 第156回学校体育研究同志会全国研究大会, 2018年8月4日-6日
- ・「剣道・柔道の伝統と民主主義—歴史をたどりながら未来を考える—」学校体育研究同志会愛知支部例会, 2018年2月11日
- ・第29回国際神道文化研究会「帝国日本のスポーツと明治神宮—幻の東京オリンピック前後—」へのコメント, 2017年10月21日, 『神園』第19号, p.78-82, 明治神宮国際神道文化研究所, 2018.5
- ・「嘉納治五郎の思想とオリンピズム—1922年の「自他共栄」主義の登場を中心に—」, 第3回奈良女子大学オリンピック・公開シンポジウム, 2016年2月20日, 「嘉納治五郎が構想したオリンピック—日本におけるオリンピズムの受容と展開—」『奈良女子大学スポーツ科学研究』第18巻, p.102-106, 2016.3
- ・「部活での暴力はいつから始まったか」, 『先生、殴らないで!』出版記念シンポジウム「学校・スポーツから体罰・暴力をなくすために」, 2013年12月15日
- ・「武術の歴史とそのパワー」, 千葉共同サイロ(株), 2012年11月20日
- ・「武道の必修化問題を考える」, 第138回学校体育研究同志会全国研究大会特別講座, 2009年8月7日

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

野球殿堂入り表彰員会規定改正小委員会委員、2020.3-現在

野球殿堂入り特別表彰研究会委員、2019.6-2019.10

秩父宮記念スポーツ博物館「秩父宮殿下御遺品室(仮称)」の展示計画に係るアドバイザー、2017.12-2018.3

くにたち文化・スポーツ振興財団評議員、2014.6-2019.5

9. 一般的言論活動

- ・「五輪海外客見送り メディア淡々と速報」『東京新聞』2021年3月23日
- ・「大会肥大化華美求め」『毎日新聞』2021年3月19日
- ・「進も退くも、五輪が陥る矛盾と危機(上)(下)」時事ドットコム, 2021年2月
- ・「時を訪ねて 幻の東京五輪」『北海道新聞』2020年9月20日
- ・「五輪をめぐる 1940年東京返上(下)」『朝日新聞』2020年7月23日
- ・「五輪をめぐる 1940年東京返上(上)」『朝日新聞』2020年7月21日
- ・「東京2020への提言 「平和の祭典」立ち返れ」『中日新聞』2020年7月10日
- ・「コロナ克服は五輪の大義か 背景に64年神話」時事ドットコム, 2020年4月14日
- ・「オリンピック・パラリンピック延期の問題点 渋谷陽一といとうせいこうの話せばわかる! SIGHT RADIO No.05, <https://anchor.fm/sightradio/episodes/No-05-eclt9h>, 2020年4月12日公開
- ・「五輪延期言い出せなかったIOC」朝日DIGITAL,, 2020年3月29日
- ・「耕論 延期劇が映したひずみ」『朝日新聞』2020年3月28日

- ・「顧みる昭和の剣道」『剣道日本』2019年8月号, p.9-17, 剣道日本社, 2019.8.
- ・(寄稿)「政治主導 やはり禁じ手」『高知新聞』2018年2月28日他(共同通信配信)
- ・(寄稿)「サッカーロシア杯 スポーツと政治 功罪は」『静岡新聞』2018年6月8日他(共同通信配信)
- ・(寄稿)「あるべき未来を指し示す 日本代表のサッカー」『中国新聞』2018年7月26日他(共同通信配信)
- ・「消えたスポーツ 戦時下の新潟(番外編)」『新潟日報』2018年8月21日
- ・「平昌五輪の南北問題で考える、スポーツと政治とは」TBS ラジオ荒川強啓デイキャッチ、2018年2月27日
- ・「福井国体冠称に「明治百五十年」」『東京新聞』2017年8月25日
- ・「戦争とスポーツ③翻弄された武道の聖地」『朝日新聞』2017年8月13日(京都版)
- ・「オリンピックの最悪の政治利用」『しんぶん赤旗』2017年5月25日
- ・「体育に新たな転機」『毎日新聞』2015年10月20日
- ・「対戦国知り国際近い深めて」『毎日新聞』2015年10月20日
- ・「耕論 規律重視は兵士養成のなごり」『朝日新聞』2015年2月17日
- ・「オヤジ、憧れのリング」『朝日新聞(夕刊)』2014年6月10日
- ・(寄稿)「オリンピック東京招致と震災復興」『東京新聞(夕刊)』2011年9月16日
- ・「重み違う「頑張ろう」」『毎日新聞(夕刊)』2011年5月7日
- ・「スポーツ100年現在・過去・未来③基本法歴史的意味を考える」『毎日新聞』2011年6月28日
- ・「まもなく、2016年夏のオリンピックの開催都市が決定。東京のこれまでの招致活動で、あなたが感じたことは何ですか？」TBS ラジオBATTLE TALK RADIO アクセス、2009年12月2日